

げんき No.63 カエル



兵庫県立こども病院
ニュースレター



平成 30 年(2018) 10 月 31 日

皇太子同妃両殿下のご訪問

総務部次長 西森 玲治

8月5日(日)に開幕した第100回全国高校野球選手権記念大会の開会式へのご出席などのために兵庫県入りされた皇太子同妃両殿下が、その前日となる8月4日に、当院及び隣接する神戸陽子線センターをご訪問されました。

両殿下はまず神戸陽子線センターにご到着され、中尾院長及び副島センター長から、こども病院及び陽子線センターの概要や陽子線治療の様子について説明をお聞きになりました。特に、陽子線治療に使用する照射機をご覧になった際には、材質についてお尋ねになる一幕もありました。

その後、当院にご移動され、7階東・西の両病棟及び3階のNICUにおいて、入院しているこども達や保護者にご交流されました。

7階の両病棟では、それぞれのプレイルームで遊んでいたこども達へ「お友達はできましたか」「治療はつらくないですか」などと膝を折ってお声をかけられていました。また、7階西病棟では入院生活などを題材とした絵日記をご覧になり、「薬が苦手と書いていますが、どうやって服用しているのですか」などと語りかけられていました。両殿下と会話を交わしたこどもさんも、「作品を褒めてくださり、うれしかった。応援して下さっている気持ちが伝わりました」と話していました。

両殿下からは、こども病院と陽子線センターの「二つの施設が、緊密に連携をとりながら、小児がんを初めとする子供たちの疾病治療に効果的に取り組み、地域の人々に高度専門医療を提供していることについて説明を伺い、心強く思うとともに、ここに入院し、あるいは通われている子供さんたちが、安心して治療を受けている様子がとても印象的でした」とのご感想をいただきました。

今回の病院ご訪問では、両殿下の優しいお気持ちに触れることができ、入院生活を余儀なくされているこども達、またそれを支えている保護者の皆さんにとって、何よりの励ましになったのではないかと、思います。また、病院職員一同としても激励をいただき、あらためて、こども達が元気になれるように頑張っていこう、という思いを新たにしています。





ふれあい看護体験

A高等学校
相良 天音

【参加動機】

私は中学生の時に、足の病気で入院、手術しました。手術後は想像以上に痛みが強く辛い日々でしたが、看護師は病室の前を通るたびに、顔を出して言葉をかけてくれたり、手を振ってくれました。常に笑顔で対応してくれたことや、痛みを伝えられないときでも、その辛さに気づいてくれたことが印象に残っています。辛い入院生活を少しでも楽しめるようにと心の支えになってくれたのが看護師さんでした。

私も患者さんの良き理解者となり、技術を向上させていくことで、人に安心を与えられ、心の支えになれるような看護師になりたいと思い看護体験を希望しました。

【参加後の感想】

今回の看護体験で学んだことは、1つ目は患者さんとのコミュニケーションのとり方です。沐浴の場面を見学したときに、静かに黙々と体や頭を洗うのではなく、患者さんに声をかけながら洗っていました。部屋の前を通るときも顔を出して「元気？」と声をかけていました。2つ目は、仕事の速さです。しっかりと患者さん



とコミュニケーションをとりながらも、患者さんが快適に過ごせるようにと、手際が良かったです。

今回学んだ2つのことは、自分のなかで苦手な2つですが、普段の学校生活などで、もっと積極的に話しかけたり、周りを見て何をしたらいいかを判断して行動していきたいと思います。本当に良い経験になりました。

【受け入れを終えての感想】

看護部担当 参事 濱田啓子

7月25日(水)、高校生30名(2年生16名、3年生14名)の看護体験を実施しました。将来看護師を目指している学生に対して、小児(こども病院)看護のイメージができるよう、実際の看護を見学・体験して頂きました。短い体験時間ではありましたが、子ども達とご家族が病気と向き合い頑張っておられる姿を見学し、「看護師になって、子どもと家族の支えになりたい」と感じた学生が殆どでした。また、チーム医療、心のケア、コミュニケーションの大切さを感じ取ったようでした。今回の体験を通して将来の夢を実現させるための第一歩を大きく踏み出していただければ幸いです。

病院でのアートプログラム「医療+アート」の紹介

公益財団法人 神戸市民文化振興財団では、神戸医療産業都市内の病院群を舞台に、プロのアーティストとアートコーディネーターが連携し、患者様やご家族に音楽等のアートを届ける事業をおこなっています。

こども病院では下記のコンサートを開催しました。



平成30年度(上半期)	プログラムおよび内容
5月23日(水)13:30~13:50	柔らかく優しい歌声の沼尾さんと一緒に色んな音楽を楽しもう♪
6月27日(金)11:30~11:50	神戸市室内管弦楽団によるヴァイオリンとピアノの音色を楽しもう♪
7月26日(水)11:30~11:50	神戸市混声合唱団がやってくるよ! みんなで一緒に歌おう♪
9月26日(水)11:30~11:50	古楽器アンサンブルの中世やバロックの音色を聴いてみよう♪

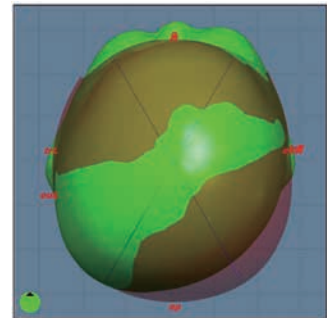
「赤ちゃんの頭の形外来」について

脳神経外科で新たに始まった「赤ちゃんの頭の形外来」についてご紹介させていただきます。赤ちゃんの頭の変形のうち、病的なもの以外は頭位性斜頭や位置的頭蓋変形などと呼ばれ、その頻度は60人～300人に1人と報告されています。大半は首が座った後に改善すると考えられていましたが、変形が強い場合には睡眠時の向き癖が変わらず、変形が助長される事もあります。頭位性斜頭は発達遅滞や機能障害の原因にはならないとされていますが、見た目の問題以外にも眼鏡や帽子が合わせづらいなどの問題が指摘されています。治療としてはヘルメットによる矯正が有効とされており、米国では年間1万人に行われている一般的な治療です。日本でも米国同様に保険診療ではありませんが、国立成育医療センターで2012年にヘルメットによる頭蓋形状誘導療法が開始され、現在までに250例以上に治療が行われその有効性と安全性が示されました。

当院でも倫理委員会の承認を得て2018年5月から「赤ちゃんの頭の形外来」を開設しました。対象は生後3か月から7か月の赤ちゃんで、手術が必要な病気を否定した後に治療の同意を得

てヘルメットを作成します。3～4週おきに受診し、形状や皮膚障害のチェック、ヘルメットの微調整を行い、約6か月で治療を終了します。費用は36万円(税込、2018年7月現在)です。当院で使用するヘルメットは国立成育医療センターと同じ「ミシガン大学式頭蓋形状誘導ヘルメット」です。

3か月未満の赤ちゃんや変形が軽度の場合は積極的体位変換の指導を行い、ヘルメットなしで経過を見ることもあります。また単なる向き癖とされていた場合も手術が必要な病気が含まれている可能性もあります。赤ちゃんの頭の形で気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。初回の診察は保険診療です。紹介状がなくても受診可能ですが、初診料とは別に2600円ご負担していただきます。



緑:治療前の頭の形
赤:作成するヘルメット



～手術室で生演奏～音楽療法士の活動

音楽療法士
久保田 由賀里 梅田 裕子

皆さんは、音楽療法士が院内でどのような活動をしているのかご存知でしょうか？

私たちの主な活動場所は4階の日帰り手術室です。手術を受けるお子様のリクエストにお応えして手術室や回復室でキーボードによる生演奏をしています。(恐らく世界でも手術室での生演奏は当院だけだと思います。)

日帰り手術では、手術当日ご自宅から来院されたお子様やご家族が、これから行われる手術に対して不安や恐怖、緊張といったとても張りつめたお気持ちでいらっしやいます。私たちは、その緊張感を少しでも和らげて安心して手術を受けて頂くため、術前待合室で

は、歌を歌ったり、おもちゃで思いっきり遊びながら色々なお話をします。そして手術室では、お子様が怖がらないで入室できるよう、リクエストされた曲を弾きながら招き入れ、時にはスタッフも一緒に歌って麻酔導入することもあります。術後回復室では、痛みに苦しむ学童や興奮状態で暴れる幼児、空腹で泣き続ける乳児のためにお子様の好きな歌で気分を逸らしたり、眠りを誘うような柔らかい音色で穏やかな音楽を奏でます。今まで泣いていたお子様が気持ちよさそうに眠り、親御さんまでも安心

されてうとうとされると、私たちのお役目が少しは果たせたのかなと感じます。そして笑顔で退院されるお子様とご家族をお見送りする瞬間が、私たちにとって大きな喜びであり、新たな活力となっています。

現在、日帰り手術以外に病棟で長期入院のお子様との音楽活動も行っています。今は限られた曜日、場所での活動ですが、今後さらにその場が広がって、お子様たちにとって、怖い、辛い治療環境が、少しでも明るい、楽しい環境になることを願って、これからも『生の音楽』を提供し続けたいと思います。



Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



9月22日南公園駅との連絡通路が開通しました。屋根がありますので雨の日でも濡れることなく病院1階に直接入ることができるようになりました。(平日7:30~18:30)



編集後記

10月号は、皇太子殿下・同妃殿下のやさしさに癒やされ、入院中の子ども達やご家族にとって励みとなり忘れられない1日となったこと、「頭の形外来」「高校生の看護体験」などを紹介しています。編集に当たりご協力頂いた皆様に感謝いたします。「げんきカエル」は、ひとりでも多くの方に読んで頂けるよう、みなさんのご意見、ご希望の記事お待ちしております。

委員長：大津雅秀

委員：濱田啓子 深江登志子 西森玲治 楠元真由美
坂田亮介 笠木憲一 井口秀子 橋本恵美
廣瀬悦子 三輪祐太郎 畑友紀子 森泰隆

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL
KOBÉ
CHILDREN'S
HOSPITAL

〒650-0047
神戸市中央区港島南町1丁目6-7
TEL. 078-945-7300
FAX. 078-302-1023
http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp